

# 2019年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

2019年8月14日

## 株式会社HANATOUR JAPAN



東証マザーズ コード 6561

## エグゼクティブサマリー

---

■ 2019年12月第2四半期は前年同期比1.3%減収25.7%営業減益  
■ KRW安により為替差損708百万円を計上し1.7億円経常損失

---

■ 日韓関係を背景に訪日韓国旅行客数の先行きが不透明なことから  
■ 2019年12月期は前期比12.7%減収、営業利益63.8%減益予想  
■ 為替差損も影響し15億円経常損失見通し

---

■ リスク分散と収益機会を着実に捕捉し外部環境の影響を最小限に  
■ 食い止め我慢の時期と位置付け 配当は据え置く

---

## 2019年12月期2Q 実績サマリー

旅行事業、免税販売店事業の伸び悩みによる減収減益に加えKRW安に伴う為替評価損が発生

	2018/12		2019/12 前期比			
	2Q	構成比	2Q	差額	増減率	構成比
取 扱 高	<b>13,339</b>	-	<b>10,444</b>	△ 2,895	△ 21.7	-
売 上 高	<b>4,262</b>	100.0	<b>4,207</b>	△ 55	△ 1.3	100.0
営 業 利 益	<b>769</b>	18.0	<b>571</b>	△ 198	△ 25.7	13.7
経 常 利 益	<b>583</b>	13.7	△ <b>167</b>	△ 750	△ 128.6	△ 4
親会社株主に帰属する 当 純 利 益	<b>423</b>	9.9	△ <b>31</b>	△ 454	△ 107.3	△ 0.7
1株当たり当期純利益	<b>38.47</b>		△ <b>2.88</b>			

## 2019年12月期2Q 損益計算書

リースバックにより売上原価が低減する一方、大森ホテルのフル稼働により販管費が増加

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2018/12		2019/12 前期比				
	2Q	構成比	2Q	増減	伸率	構成比	
売上高	4,262	100.0	4,207	△ 55	△ 1.3	100.0	売上原価
売上原価	1,523	35.7	1,297	△ 226	△ 14.8	30.8	バス車両のリースバックによるランニングコスト低減
売上総利益	2,739	64.3	2,910	171	6.2	69.2	販管費
販管費	1,969	46.2	2,338	369	44.4	55.6	大森ホテルの販管費 407百万円増
うち人件費	707	16.6	771	64	44	18.3	営業外費用
営業利益	769	18.0	571	△ 198	△ 25.7	13.7	KRW安⇒為替評価損 708百万円
経常利益	583	13.7	△ 167	△ 750	△ 128.8	△ 4.0	特別損益
親会社株主に帰属する 当期純利益	423	9.9	△ 31	△ 454	△ 107.4	△ 0.7	リースバックによる 売却損益263百万円

## 2019年12月期2Q セグメント別

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

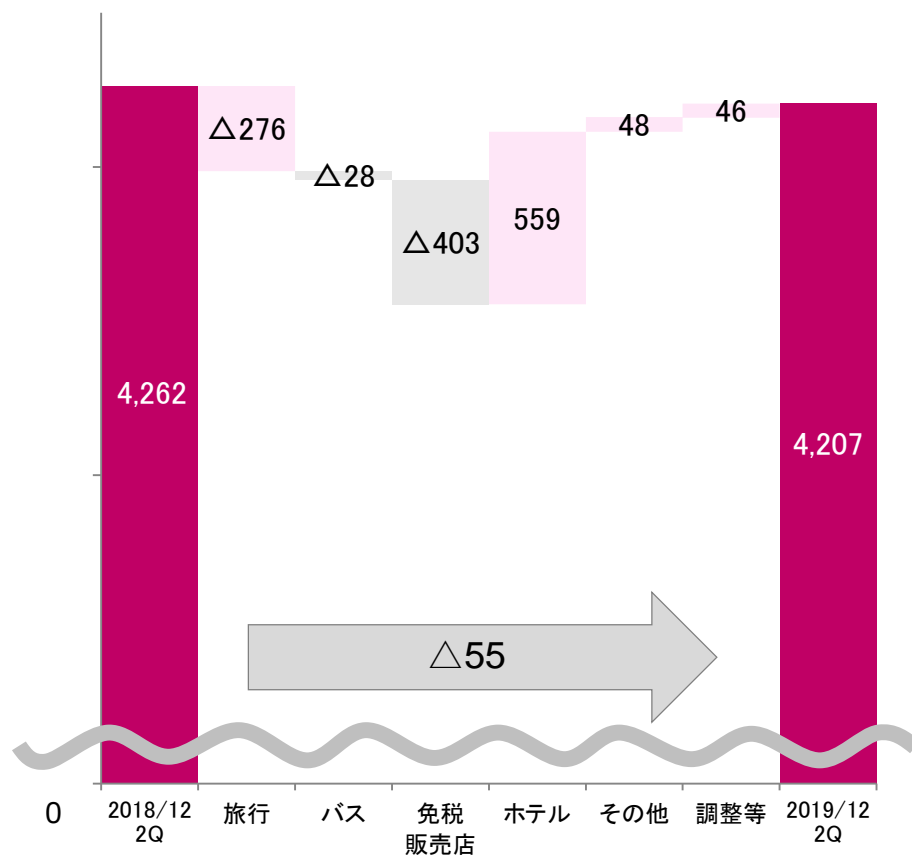
		2018/12 2Q	2019/12 2Q	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅行事業	売上高	1,753	1,477	△ 276.0	△ 15.8	35.1
	セグメント利益 利益率	709 40.4	445 30.1	△ 264.0 △ 10.3	△ 37.2 —	77.9 —
バス事業	売上高	1,243	1,215	△ 28.0	△ 2.3	28.9
	セグメント利益 利益率	110 8.8	191 15.7	81 6.9	73.8 —	33.5 —
免税販売店事業	売上高	1,655	1,252	△ 403.0	△ 24.3	29.8
	セグメント利益 利益率	217 13.1	69 5.5	△ 148.0 △ 7.6	△ 68.4 —	12.1 —
ホテル等施設運営事業	売上高	363	922	559	153.6	21.9
	セグメント利益 利益率	△ 25 △ 7	95 10.3	120 17	△ 477.2 —	16.6 —
その他	売上高	69	117	48	69.6	2.8
	セグメント利益 利益率	△ 36 △ 52.2	△ 19 △ 16.8	17 35.4	△ 47.2 —	△ 3.3 —
小計	売上高	5,086	4,984	△ 102	△ 2.0	118.5
	セグメント利益 利益率	975 19.2	782 15.7	△ 193 △ 3.5	△ 19.8 —	137.0 —
調整等	売上高	△ 823	△ 777	46	△ 5.6	△ 18.5
	セグメント利益 利益率	△ 205 —	△ 211 —	△ 6 —	2.9 —	△ 37.0 —
合計	売上高	4,262	4,207	△ 55	△ 1.3	100.0
	営業利益 利益率	769 18.0	571 13.7	△ 198 △ 4.4	△ 25.7 —	100.0 —

## 2019年12月期2Q 増減分析

ホテル・バス事業の収益構造が改善するも旅行事業・免税事業の減益が影響

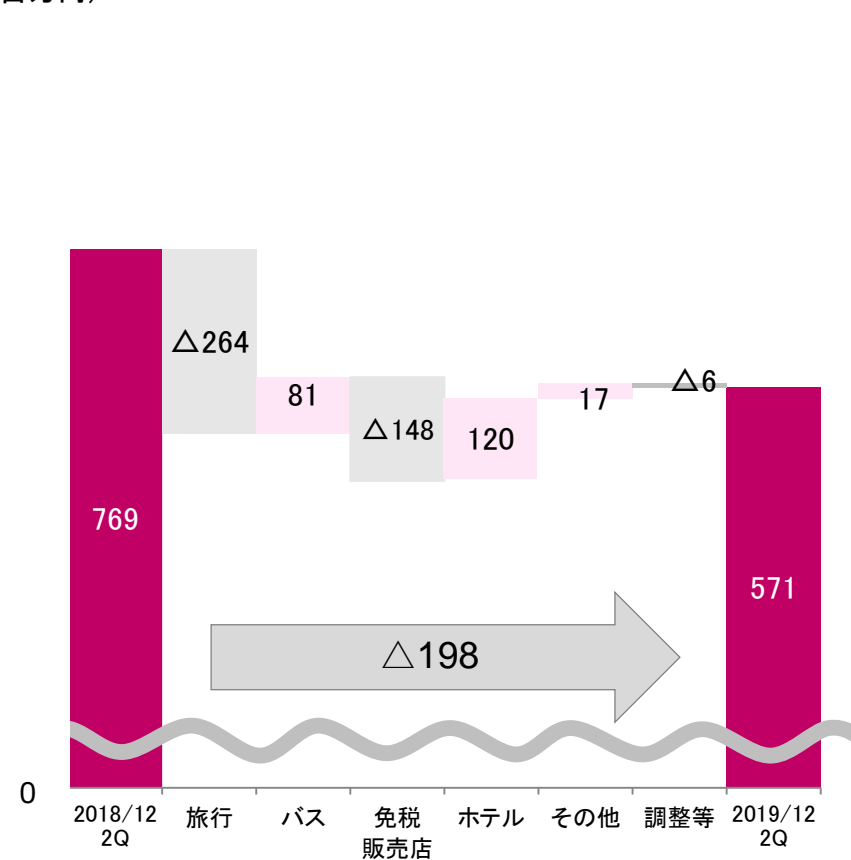
## 売上高

(百万円)



## 営業利益

(百万円)

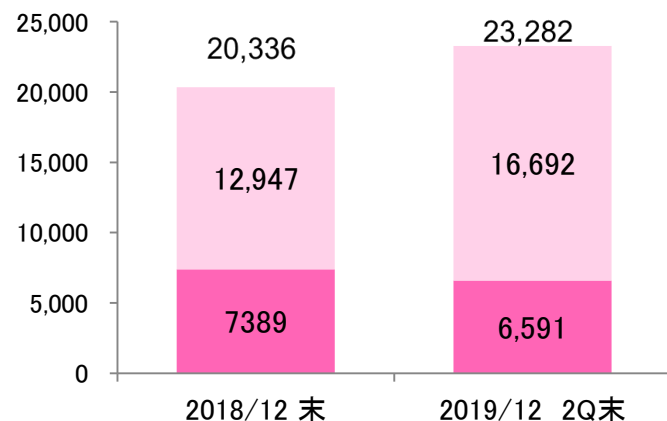


※百万円未満切捨て

## 2019年12月期2Q末 貸借対照表

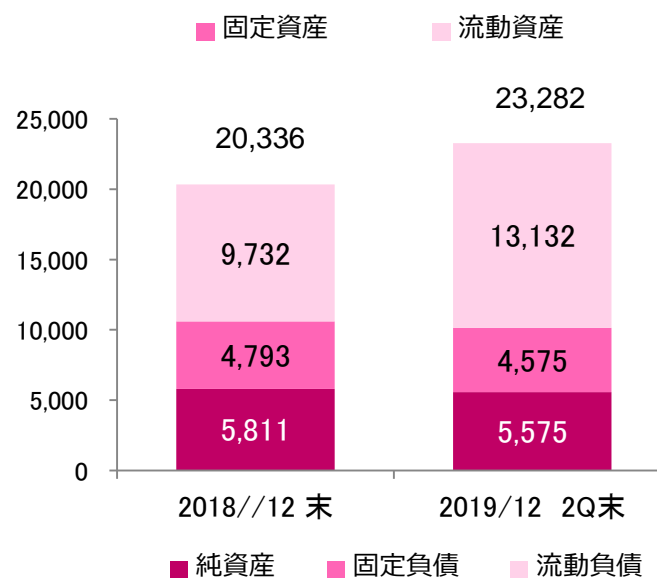
**KRW建のCASHをプール・円建の短期借入を実施したことにより総資産・負債が増加**

単位：百万円（百万円未満切捨て）



流動資産	16,692	(+3,743)
■ 現金及び預金	13,681	(+3,444) 営業利益増、短期借入
■ 売掛金	2,042	(+691)

固定資産	6,591	(△797)
■ 有形固定資産	4,970	(△1,529) 車両売却81台
■ 投資その他	1,490	(+696)



流動負債	13,132	(+3,400)
■ 短期借入金	11,088	(+4,217)

固定負債	4,575	(△218)
■ リース債務	3,692	(△112)

純資産	5,575	(△235)
■ 資本金	1,022	
■ 資本剰余金	966	
■ 利益剰余金	3,733	(△249) 配当△217

## 2019年12月期 予想サマリー

**2019年12月期は前期比8.9%減収、60.1%営業減益予想 配当予想は変更なし**

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%、円

	2018/12		2019/12 予想	前期比			2019/12 前回予想※
		構成比		増減	伸率	構成比	
売上高	7,891	100.0	6,887	△ 1,003	△ 12.7	100.0	10,301
営業利益	918	11.6	332	△ 586	△ 63.8	4.8	2,004
経常利益	727	9.2	△ 1,460	△ 2,188	—	—	1,942
親会社株主に帰属する 当純利益	558	7.1	△ 965	△ 1,524	—	—	1,303
1株当たり当期純利益	50.89		△ 88.70				119.69
1株当たり配当金	20.00		20.00				20.00
為替レート JPY/100KRW	期末レート 10.02		想定レート 8.45				想定レート 9.70

※2019年2月14日公表時点の予想



## 2019年12月期 予想 損益計算書

想定為替レート変更により為替評価損の発生から経常損失・当期純損失を見込む

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2018/12		2019/12 前期比				2019/12 前回予想 ※
	2018/12	構成比	予想	増減	伸率	構成比	
売上高	<b>7,891</b>	100.0	<b>6,887</b>	△ 1,004	△ 12.7	100.0	<b>10,301</b>
売上原価	2,926	37.1	2,250	△ 676	△ 23.1	32.7	3,100
売上総利益	4,964	62.9	4,636	△ 328	△ 6.6	67.3	7,201
販売費	4,046	51.3	4,304	258	6.4	62.5	5,196
うち人件費	1,383	17.5	1,468	85	6.1	21.3	1,647
営業利益	<b>918</b>	11.6	<b>332</b>	△ 586	△ 63.8	4.8	<b>2,004</b>
経常利益	<b>727</b>	9.2	△ <b>1,460</b>	△ 2,187	—	—	<b>1,942</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>558</b>	7.1	△ <b>965</b>	△ 1,523	—	—	<b>1,303</b>

※2019年2月14日公表時点の予想

## 2019年12月期 予想 セグメント別

韓国からのインバウンドの先行きが不透明で主力の旅行事業は60%減益見込む

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2018/12	2019/12 前年比				2019/12 前回予想※
			予想	増減	伸率	構成比	
旅行事業	売上高 セグメント利益 利益率	2,980 1,036 34.8	2,284 439 19.3	△696 △597 △15	△23.4 △57.6 —	33.2 132.2 —	3,486 1,281 36.7
バス事業	売上高 セグメント利益 利益率	2,399 105 4.4	2,186 261 12.0	△213 156 8	△8.9 148.6 —	31.7 78.6 —	2,972 628 21.1
免税販売店事業	売上高 セグメント利益 利益率	2,555 192 7.5	1,576 △43 —	△979 △235 —	△38.3 △122.4 —	22.9 -13.0 —	3,175 369 11.6
ホテル等施設運営事業	売上高 セグメント利益 利益率	1,283 64 5.0	1,974 196 9.9	691 132 5	53.9 206.3 —	28.7 59.0 —	2,072 226 11.0
その他	売上高 セグメント利益 利益率	158 △72 △45.6	246 △16 —	88 56 —	55.7 — —	3.6 -4.8 —	342 23 7.0
調整等	売上高 セグメント利益 利益率	△1,486 △408 27.5	△1,380 △505 36.6	106 △97 9	△7.1 23.8 —	△20 △152 —	△1,748 △526 30.1
合計	売上高 営業利益 利益率	7,891 918 11.6	6,887 332 4.8	△1,004 △586 △7	△12.7 △63.8 —	100.0 100.0 —	10,301 2,004 19.5

※2019年2月14日公表時点の予想

## 2019年12月期 上期の主な取組み

### 旅行事業

- ・ 総合プラットフォーム「Gorilla」の開発、Tomaru・Topkenの拡販
- ・ 韓国向けのプロモーション強化
- ・ インドネシアに営業拠点を設置、韓国以外のエリアへの営業強化

### バス事業

- ・ バス車両81台のリースバックによるランニングコストの低減
- ・ くるくるバスの販路拡大のためのプロモーション強化  
韓国以外の利用者10%超

### 免税販売店事業

- ・ 継続して新たなPB商品の企画・導入の結果、客単価上昇
- ・ 集客数増加のための営業強化、プロモーション強化したが、集客数は伸悩む

### ホテル等施設運営事業

- ・ Tmark City東京大森：稼働率は計画通りに推移し好調を維持
- ・ Tmark City札幌：ADR、稼働率ともに前年同期を上回る高水準

## 2019年12月期 下期の主な取組み

### 旅行事業

- ・ 7月リリースした「Gorilla」による旅行エージェント（アジア・欧米）への販路拡大
- ・ Japan Tomaru、Japan Topkenのシステム連携の推進、販路拡大
- ・ アウトバウンド強化
- ・ 欧州にて新規営業拠点設置の検討

### バス事業

- ・ 販路拡大のための営業強化 ⇒ 国内大手エージェント（ラグビーWC特需）
- ・ バス配車管理システムのリリース ⇒ 更なる稼働率の向上
- ・ くるくるバスのアプリ対応によるグローバル化推進

### 免税販売店事業

- ・ 新たなPB商品の企画・販売の継続
- ・ PB商品の国内・海外卸売の販路開拓・販売強化（ホテルなど）
- ・ 大阪店の移設

### ホテル等施設運営事業

- ・ Tmark City東京大森、札幌 ⇒ 認知度向上、レベニューマネジメント維持向上
- ・ Tmark City札幌ODORIの開業準備
- ・ その他新規ホテルの運営マネジメント契約締結を目指す

# ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経理財務部

TEL 03-6402-4411

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>